

令和2年度 当別町子ども発達支援センター 自己評価の結果について

【評価対象事業】

- ・児童発達支援

【調査機関】

- ・令和2年12月7日～令和3年1月15日

【調査対象者】

- ・当別町子ども発達支援センター指導員

【回答率】

- ・配布数：7名 回収数7 回収率100%
- ・回答を分析し、次年度の改善に反映してまいります。

【評価】

- ・業務改善、適切な支援の提供、関係機関や保護者との連携、非常時の対応は、概ね適切に行っているという評価です。
- ・職員の資質、専門性、保護者支援については個人差がみられます。コロナウイルス感染症の影響により研修、学習の場が減りましたが、個々の自己研鑽にも差がみられるのではという評価です。
- ・コロナウイルス感染症拡大防止のため自粛等があった中、通園は停止しませんでした。職員や利用者から感染症の発生はありませんでした。体調管理や施設内の消毒等の対応については概ね良好だったという評価です。
- ・センター年長児保護者の学校見学は、コロナウイルス感染症の影響により、集団での見学が困難になりましたが、個別に対応していただいた。

【課題】

- ・今後も、利用者に安心して通園していただけるよう、コロナウイルス感染症防止対策を徹底。
- ・コロナウイルス感染症の影響で、中止となった利用者向けの活動の今後の取り組み方の検討
- ・今後、コロナウイルス感染症の影響により研修や学習の場が減った時のセンター内研修や自己研鑽の取り組み方の検討
- ・関係機関との連携のあり方の検討。

【今後に向けて】

- ・今後も利用児童、保護者の方一人ひとりに合った、適切な支援の提供や資質向上のために、次年度は、麦の子会の臨床発達心理士による地域支援の受講、北海道立子ども総合医療・療育センターの医師や専門職による専門的な技術支援受講や療育

センターでの現場研修等を9回、北海道通園連絡協議会主催の発達障害についての研修を2回、感染症や虐待、相談支援専門員研修等各1回以上、随時研修会、学習会の案内があれば、参加します。研修会が中止になった場合は、個々に課題を持ち、ケース会議や園内研修の回数を増やします。また、対象児童（次年度は8名程度）の受診や指導の際には同行し、専門医や専門指導見学、助言をいただき、資質向上に努めます。同行できない時には、電話や文書等で情報共有し連携に努めます。

- 学校や園、他の事業所等との連携にも努めます。直接連携できない場合には、電話、文書、関係機関と連携と取り方を協議します。
- 次年度も指導員の健康管理の意識向上、センター内施設の消毒などコロナウイルス感染症やその他の感染症予防の徹底に努めます。